

歴史講座

鎌倉時代の蒲郡と安達盛長

鎌倉時代にゆかりのある市内の史跡と、そこで出土した考古資料から、中世鎌倉期の蒲郡を紹介します。初代三河守護を務め、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にも名を連ねた安達藤九郎盛長についてもお話します。



勝善寺本堂

- とき** 6月25日(土) 午後1時30分～2時30分
- ところ** 2階研修室
- 定員** 20人
- 参加費** 無料
- 申し込み** 6月19日(日)までに、はがきまたは電話で、参加者全員の住所・氏名・電話番号を博物館(〒443-0035 栄町10-22)へ。



妖怪うちわをつくろう

塗り絵でオリジナルうちわを作ります。

- とき** 6月11日(土)～7月10日(日)
- ところ** 1階エントランス
- 参加費** 無料 ※申し込み不要



館長の
ひろこいん



小林龍二

テレビをつけると、国同士の争いで一般市民が犠牲になっている映像がよく流れていたもので、テレビを消して自宅の小さな水槽ばかり眺めていました。日常のストレスから解放される癒しの時間ですが、なかなか自宅に水槽は置けないと思いますので、皆さん水族館に来るといいですよ。

私も役職上、なにかと争いや食い違いが生じることもあるのですが、残るのはただ疲労と悲しみだけです。人間だけでなく水族館の生き物たちも条件が揃わないと時に争います。争わせない事が一番ですが、阻止や回避の術を飼育員たちはいくつか持っています。生き物同士の力の差がはっきりしている場合は「いじめ」になりますが、同程度の力の生き物の時は「ケンカ」が始まります。どちらかが怪我をしたり最悪は共倒れするので飼育員がレフリーのごとく見張っていて、度が過ぎると強い方を独房水



仲良くやってもらうテクニックを駆使して飼育しています。

水槽へ隔離して反省させます。こうした争いが起こらないように、魚の性格を把握しなくてはなりません。元からいた魚よりも大きい魚を新規に導入したり、小さく弱い魚の時は数で勝負して一気に大量の数を入れたり、好みのエサが違う魚種を組み合わせてたりなど工夫して平和や秩序を守っています。時には水槽外の飼育員にケンカを売ってくる魚もいて、そういった魚は近くに子供や恋人がいてそれを守るためなどが多いです。なんだよ魚のくせにカッコいいじゃないか。